

ホーム名：グループホームフレンド天王寺2F						
自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	地域の中でその人らしく暮らす。地域に密着した尊厳のある生活「地域の中で、その人がその人らしく暮らす」を理念としている。その人らしい生活、暮らしを支える意味をよく話し合い、現場で生かされるように取り組んでいる。	事業所の開設時に作られた理念は、事務所やエレベーターホールにも掲示しいつも目につくようにしている。毎日の業務の中で大事にし研修や申し送りの時間にも確認している。	代表者の話から家族や知人の面会がとて多い事業所であるので外部との関わりを継続しながら、穏やかに日常生活を送っている事が推察される。今後も職員の目標として理念を大切にされることを希望する。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はないが、今後、地域の老人会や町内の行事には参加しようと思っている。	地域の特色で、自治会、老人会等の住民のコミュニティー活動が活発でない中、事業所として出来ることを模索してきた。将来的にはすぐ近くに保育所の建設計画があるので子供たちとの交流が期待される。	近所に保育所ができることは計画段階ではあるが非常に楽しみな事である。地域の中で子供達との交流ができることは、入居者の日常生活を更に充実させるものと思われる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	そういった取り組みがないので、今後は例えば、散歩中に地域の子供の見守り隊として見守り役などの事をしていきたい。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	フレンド筆ヶ崎と共同で開催している。会議には地域の代表、地域包括支援センターの代表、入居者及び家族の代表を外部メンバーとして現況報告を行い、意見交換を行っている。	地域の代表、包括支援センター、家族数名の参加を得て開催している。議事録は玄関に掲示している。	面会も多く、運営推進会議に出席される家族もあり事業所の支援の内容は家族に理解されている。町会長、地域包括からの会議における意見、情報等も盛り込まれた会議録の充実を期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	行き来する事はないが、電話でのやり取りでサービスの質の向上に取り組んでいる。今後は、行き来する機会をつくり、市町村とのつながりを密にし、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。	市の高齢介護室の職員とは顔の見える関係にある。区のグループホーム協会に出席、内科、歯科医の会議にグループホーム代表として出席し、警察消防主催の年末年始パトロール強化の集まりなどにも参加している。	自治会などのコミュニティがあまり活発な地域ではないので、その分も市との関係を今後も密にして将来的に事業所が地域の中でのどのような関わりを持てるのかを共に考えていかれる事を期待する。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	どのような状態に置かれている利用者であったとしても、身体拘束をしなくていい方法を考え、その都度スタッフで話し合い検討し実践に努めている。	事業所の前面道路の人通りが激しく、入居者の安全を重視し玄関は施錠されている。転倒の危険が考えられる時等、他に方法が考えられない場合は「身体拘束に関する説明書・同意書」の記入を徹底し、その手順についての研修も行っている。	職員が全員一生懸命支援にあたっている。入居者が楽しく過ごせるように、不安や寂しさを少しでも和らげたいという気持ちで支援にあたっているという若い職員の言葉から日常のケアの様子を察することができる。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法について学ぶ研修等は、現在行ってないが、入居者の身体の確認、家族と入居者の関係についてタイムリーな把握に努めている。今後、研修等の時間をとり、法について学ぶ機会を作り、取り組んでいきたい。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している</p>	<p>簡単な資料をおいている。学ぶ機会や支援までは行っていない。大切な事なので、勉強会に取り入れ、詳しく学び支援していきたい</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者や家族に分かりやすく説明し、疑問点についても、契約時だけでなく、その後においても聞いて頂ける様、柔軟に対応している。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談・苦情対応職員を設置し、意見を聞く機会を設け、スムーズに対応できる様にしている。意見箱設置もしている。</p>	<p>家族の面会が多く、入居者の介護に関する事業所からの提案や家族への依頼についても協力的な家族が多い。同時進行で状態を把握して支援している。個別面談で意見を聞く機会も設けている。運営推進会議への出席があり、意見を聞く事が出来る。</p>	<p>今後も家族からの要望や運営に関する意見なども取り入れ、開かれた事業所であることを期待する。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ミーティングで意見を聞く機会を設け、反映出来る様取り組んでいる。</p>	<p>入居者の生活リハビリの一つとして新聞受けを建物の中にも作り職員が入れておき入居者が毎朝取りに行く、これも職員の提案である。代表者は将来的には心理カウンセラーを入れてさらに職員が働きやすい、意見が言いやすい職場作りを目指している。</p>	<p>若い職員の持つ発想力や素直な思いを今後もどんどん取り入れ介護に反映させていくことを期待する。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>共通した知識をもち、評価をもって向上心がもてるよう働きかけている。職員には定期的に日常の悩みや意見を聞く機会を設けている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>様々な取組み（研修や指導）を行っているが、未だ発展途上などところが多い。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>同業者との交流はないが、同一法人のグループホームとの交流はある。時間が許せば大阪市のグループホーム連絡会に参加したい。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前面接を必ず行い、本人とも話す時間を作っている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族との話合いを持つ場を大切にしている。いつでも相談に対応できるよう心がけている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>してほしい事や訴えたい事をいち早く見つける様努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>スタッフは人生の先輩という尊敬の気持ちで接し、その場その場の会話を大切にし、昔に経験された事や調理の工夫等を学び支えあっている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族との話し合い、笑い、共に支えあう関係を築いている。そうしていく上で家族からの本音が聞こえる。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族の面会に制限せず、友人の方の面会など可能な限り受け入れている。</p>	<p>家族が入居者の希望に沿って外出や外泊に連れて行かれることが多い。以前高校の教師をされていた方のところに生徒さんが訪問してくれたり、家族や友人知人の面会がとても多い。</p>	<p>家族や友人知人とののかかわりは入居者にとり大きな楽しみでもあり励みにもなる事と考えられ、今後も繋がり継続が期待される。また昼間は居室よりもリビングに集い、入居者同士が交流出来るよう声掛けなど心がけて支援している。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>一人ぼっちという場は作らず、仲間がたくさんいるという安心感をもってもらいたい、入居者同士が関われる場を大切にしている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>関係を断ち切らないよう、どんな時でも相談していただける関係を作っている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思っている事に希望や意思表示が困難な場合は、意思が確認できる様工夫する。本人本位になるよう前事業所からの情報を大切にしている。	入居前には自宅を訪問し就寝時の寝具の様子、ペットについて、近所付きあい、好きなものまで詳しく確認している。職員同士の情報の共有で一人一人の思いを把握するよう努めている。	ADLの低下により入居者の思いを汲み取ることの困難さは増していくが寄り添い、傾聴することで手厚い支援を継続される事を期待している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	生活歴や暮らし方、生活環境などを家族や知人からの聞き取りを行い、これまでの生活歴を大切にできるよう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	統合的に把握し、柔軟に対応できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ガイドライン方式を活用している。作成については、ケアマネだけでなく、スタッフも交えてチームで作成している。スタッフが気付いた事を介護計画に反映するようにしている。変化にその都度対応していく為、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。その際は関係者にも意見を聞き新たな計画作成を行っている。	入所時に居宅のケアマネからの情報や病院からのサマリーを基に介護計画を立てるが、自宅訪問でどんな生活をされていたかを細かいところまで調査し計画に生かしている。長期目標は1年、短期は5～6ヶ月で入居後の生活の中でその人の変化に合わせて見直ししている。	介護計画には「活動や交流で楽しく過ごしたい」「健康で過ごしたい」「規則正しい食事をとる」など身近な日常生活の目標や短期記憶障害等認知症の症状について細かく目標をきめて、効果、達成度について見直ししている。今後も関係者の協力のもと、その作成とモニタリングをきめ細かい支援に結び付けられたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースに日々の記録をとり水分、排泄、食事摂取量などを記載し、スタッフが情報を共有し、申し送りにも役立て、実践や介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	不穏時や必要に応じて、デイサービスの空間、物品を利用した支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は町会長との支援だけなので、今後積極的に支援していきたい。消防との連携によって、防火知識についての勉強会を予定している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前からのかかりつけ医での受診をしたり、グループホームの協力医とも連携した対応をしている。	看取りを希望される方が多いため24時間体制で医療機関との連絡が取れる態勢が出来ている。協力病院から、また歯科医院からもそれぞれ週に一度の往診がある。診察に際しては管理職が立会い家族との情報の伝達窓口を一本化している。	馴染みのあるかかりつけ医希望者にはその関係の継続を支援し、協力医療機関も含め適切な医療を受けられるよう今後も支援を継続される事を希望する。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護との連携がある為、状況に応じて相談し、日常の健康管理、医療活用の支援に努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者の情報交換を密に図り、早期退院への取り組み、グループホームの復帰を協議して取り組んでいる。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人の意向をもとに、家族の意向なども聞き入れ、医療機関を連携し、全員で方針を共有している。</p>	<p>ここを終の棲家と思っている入居者は多く、これまでに30人の看取りを行っている。「終末期に対するアンケート」をとり意向を確認している。医師、看護師、職員、家族が連携しそれぞれの希望に沿ってできる範囲で支援を行っている。</p>	<p>事業所としては看取りの経験がかなりあるが、夜間など職員が2人（2ユニット）なので、関連機関への連絡と職員に対しては「慌てない事」「管理者への連絡」を徹底している。職員の心理ケアについても代表者は考慮している。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>個別対応マニュアルで対応を行うようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>緊急連絡網を作成し、定期的な避難訓練を年間計画に取り組んでいる。</p>	<p>災害時の対応マニュアルがあり年2回避難訓練を行っている。平成26年度は天王寺消防署の立会いのもと避難救出について、避難経路の確認等の研修が行われた。</p>	<p>多角的な災害を想定した取り組みと災害備蓄品の充実を願う。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>スタッフは入居者に尊敬を含めた言葉遣いで接しており、外来者への対応及び記録類の保管取扱い等、個人情報保護を心がけている。</p>	<p>高齢者の尊厳保持とプライバシーの保護のマニュアルに沿って介護を行っている。入居時の家庭訪問や連絡検討会議で意向をできる限り理解し家族と密に連絡を取るようになっている。</p>	<p>一人一人の入居者が自分の残された力を発揮でき、出来るだけ満足して暮らせるよう今後も支援を継続されるよう期待している。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>支援内容についても、わかりやすく説明をし、同意を得ている。認知症の方でも自己決定できるように情報を収集している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの体調・精神面を把握し、その時々本人の意向を尊重し支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>洗面所を設け、鏡をみる事で、身だしなみを心がけてもらえるように努めている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>その日のメニューを食堂に掲示し、話題のひとつとしている。準備や片づけはスタッフがしている。準備や片づけをする事で、日常生活により近くなるので、出来る範囲で一緒に行っていきたい。</p>	<p>介護の充実を優先し昼夜は配食サービスを利用している。正月にはおせち、白玉雑煮、クリスマスには、うどんすきを予定している。お誕生会ではスポンジケーキに皆でデコレーションをしたり調理したりしている。</p>	<p>ミキサー食は職員が実際に試食してみて美味しいものではないということからやわらか食を取り入れている。家族の訪問が多く、一緒に外食することもよく有る。職員も一緒に食事をとって和やかな食事風景である。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりの食事の摂取量や水分摂取量、栄養バランスを1日全体を通して把握している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔内の清潔保持を日常的に支援している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>声かけや、誘導により排泄の失敗やおむつの使用を減らせるよう支援している。</p>	<p>排泄チェックシートにより排泄間隔を掴んでいる。失敗する事を恐れずおむつではなく普通のパンツを着用している人も多い。トイレの清潔さには特にこだわりを持ち、徹底してきれいになっている。</p>	<p>過剰な支援はしないで残された力を大切にしようという支援の中排泄に関しても「限界までパンツでがんばろう」という気持ちを持ち応援している。入居者の自立支援に向け今後も温かい介助を期待する。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>入居者の排泄の状態を把握するため、排泄チェック表に記録している。また、必要に応じて家族や医療機関への報告を行い、指示に従い水分補給等の対応を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりの希望にあわせ、気持ちよく入浴できるように支援している。</p>	<p>週に2回、午後からの入浴を基本としているが希望に合わせて対応している。シャワーチェアを利用したりそれぞれに合わせた入浴の方法を考えている。</p>	<p>入浴を嫌がる方にはゆっくり浸かって気持ちよくなるよう声かけをしたり家族の協力を得たり様々な工夫を行っている。</p>

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない入居者には、1日のリズムづくりを通じた安眠薬をとっている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>スタッフは入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者の一人ひとりが医師の指示通り服薬できるよう支援し症状の変化を確認している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(洗濯たたみ、食器洗い、モップかけ、新聞取り)</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>近くの公園や神社等に出かけ、季節の変化を感じてもらったり、近くのスーパーなどにも出かけている。</p>	<p>冬は控えるが季節を感じるためにも外出を行っている。例えば近くの赤十字病院の遊歩道や花壇を散歩したり、お花見や公園、神社などに出かけることがある。また、家族と外出や一泊旅行に行かれる方もいる。</p>	<p>一人一人の体調などを考慮した上でコンビニやスーパーに買物に出かけるなど日々の外出支援を今後も継続される事を希望する。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>必要な買い物の代行や同行で、実際にお金を使う事の提供を行っている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙の代筆やポストへの投函を行い、友人への電話をつないだりと支援している。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>心地よく過ごせるように、採光や騒音に配慮し家庭的な雰囲気作りを心掛けている。1F玄関には、観葉植物を置き雰囲気作りに関心している。</p>	<p>窓のすぐ近くを鉄道線路が走っているが防音完備しており騒音感はなく、電車の走る様子がよく見える。壁には季節ごとの飾りが飾られている。入居者は居室にいるよりリビングでくつろぐ方が多いということである。</p>	<p>壁には秋の木の塗り絵作品や貼り絵、ペーパークラフトのクリスマスツリー等、職員のアイデアを取り入れ入居者と共に制作した作品が飾られていた。今後も季節を感じられ、しかも子供っぽくない落ち着いた飾り付でなごみの空間作りを工夫されるよう期待している。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファやテーブルを置き、好きな場所で過ごせるよう配慮している。時には、生花や鉢植えなどを置き居心地よく過ごせるよう心がけている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者一人ひとりに合わせた居室の環境作り、居室には使い慣れた家具や生活用品、装飾品などが持ち込まれ安心して過ごせる場所になっている。</p>	<p>仏壇を置いたり、大切な家族との写真、誕生会の写真を飾っている人や、荷物を多く置かずすっきりした部屋にしている人など一人一人、思い思いに暮らしている。</p>	<p>居室内に水回りの設備がないので何かあればリビングに出て他の入居者と交わることが出来ている。今後もその人にとって居心地のよい居室作りへの支援を期待する。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内はバリアフリーになっており、滑り止めや要所への手すりの設置、福祉用具の利用により、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。各居室の入口に表札をあげ、自分の居室がわかりやすいよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない